令和３年度　江戸川区立西一之江小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	よく考えすすんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供たちが、「今日は一日楽しかった。また、明日が楽しみだ。」と思える学校。 教職員も子供たちと共に学び、自らも成長していける学校。 ・明るい学校　・楽しい学校　・魅力ある学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・コロナ禍においても学校応援団による読み聞かせを行った。 ・ALTや外国語講師の指導を目の当たりにでき、各教員の指導力の向上につながった。 ＜課題＞・コロナ禍による休校があり、学力・体力の向上を図れなかった。 ・コロナ禍による休校があり、オリパラ教育に取り組む時間を十分に確保できなかった。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・東京ベーシックドリルを活用した朝学習や放課後補習教室の実施 ・プログラムに沿った小中連携の実施、検証、改善	・東京ベーシックドリル診断テストで、年度末各学年共に10P向上 ・プログラムの完全実施	A	B	・ベーシックドリルの活用方法について検討が必要。 ・小中の作品交流ができた。	B	・出前授業や中学校の見学など、小中連携に積極的に取り組んだ。	・ベーシックドリルにより弱点を洗い出し、それを補完するような補習教室を実施していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書科で調べ学習の充実 ・図書室整美活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施	・図鑑や図書資料などから必要な情報を収集し活用する力の向上 ・読書意欲の向上	A	A	・図書整備を通して、本に親しみをもたせることができた。公共図書館を活用できた。 ・学校図書館を活用し探求的な学習につながる授業を展開する必要がある。 ・朝読書用の図書の充実を図る。 ・様々な読み聞かせ活動等ができた。	A	・本はともだち隊等の読み聞かせや図書室の装飾などに取り組んだ。	・引き続き図書の充実を図り、読書活動を活発に行っていく。 ・図書委員の活動を通して啓発を行う。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・学年ごとに朝の時間に運動遊び「元気タイム」の実施	・体力テスト全種目において、昨年度の記録を上回る	C	C	・運動遊びの時間だけでは体力の向上にはつながっていない。	B	・「元気タイム」や「スポーツクラブ」により体力が向上した。	・運動に取り組む時間を保障し、運動の楽しさを味わわせる。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラローナーの充実	・オリパラ掲示板の活用 ・「一流選手に学ぼう」の実施	・オリパラに対する興味関心の向上 ・「一流選手に学ぼう」実施の際のオリパラノートの全児童の活用	C	C	・オリパラ掲示板をさらに活用できた	A	・オリパラ掲示板などで興味関心の向上につながった。	・これまでの活動を東京2020レガシーに生かしていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・校内で授業力向上に向けた情報の共有や講師を含めた教員同士のOJTの実施	・教職員の英語力向上と苦手意識の削減 ・教職員の授業力の向上	A	B	・ALTと積極的に話す児童がいた。 ・ALTに頼ってしまった。	A	・自主研修等を通して、授業力の向上を図った。	・引き続きALTと連携し、授業力向上を目指す
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・Q－Uテストやアンケートの実施 ・いじめアンケートを実施	・学級の実態の把握 ・一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止	B	B	・QUの活用、一人一人への聞き取りができた。 ・アンケートの効率化をしたい。 ・QU結果の共有がしたい。	A	・いじめの情報もなく、適切な対応を行っている。道徳やなかよし週間の取り組みが成果を挙げている。	・校内での連携を密にし、迅速で的確な対応を取れるようにしていく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	A	A	・支援体制が定着した。 ・SCを通して理解の共有ができたが、研修会がもう少しあっても良かった。	B	・さくらルームの設置により、特別支援の充実を図っている。	・特別支援の研修会を充実させる。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・全学級でデジタル教科書・タブレットの使用 ・教員ICT研修の実施	・全教員がデジタル教科書・タブレットを活用した授業を実施 ・全学級でプログラミング教育を実施	A	B	・デジタル教材が活用できた。 ・オンライン授業に向けて不十分。 ・有意義な研修ができた。	B	・自主研修により、研修の充実を図った。	・タブレット端末のより効率的な使い方を考えていく。
特色ある教育の展開	プログラミング教育	・情報活用能力及びプログラミング的思考の育成	・プログラミング教育年間指導計画に沿った授業の展開	・プログラミング教育年間指導計画の実施	A	B	・タブレット端末の配布により、情報活用に携わる機会が大幅に増えた。 ・パソコンの使用率が減った。今まで使っていたツールで、タブレットでは使えないものがある。	A	・タブレットの活用により、学習意欲が高まった。 ・ネット環境が充分でない。家庭との連携も必要。	・年間指導計画を見直し、タブレットで対応できる活動を考えていく。
	俳句作り	・四季の俳句作り ・俳句集「しらさぎ」の発行	・季節ごとの俳句作りと代表児童の作品の地域での掲示	・季節ごとの取り組み	A	A	・季節ごとの俳句作り、地域との交流、俳句集「しらさぎ」の発行等充実した活動ができた。	A	・地域の施設等に俳句を掲示することで、活動の様子が見られた	・今後も続けていく。